

全国の人に感謝して

栃木市立栃木東中学校 2年 松尾 采美

私の母は古くから続く神社の家に生まれました。緑豊かな田舎にある神社で、本殿は室町時代後期に建てられ、国の重要文化財に指定されています。

私が幼稚園児だった時、栃木市では豪雨災害がありました。その時、神社の周りには土砂災害警戒区域があるため、祖母、曾祖母、叔母、いとこ達は、避難指示が出る前に私の家に避難しました。しかし叔父は、神社が心配で、指示が出るまでは自宅に残ることにしたのです。幸い、神社にも自宅にも被害はなく済んだのですが、叔父が神社を守ろうとするには、様々な理由があったと後で知りました。

本殿の屋根は檜皮葺という工法で、檜の樹皮を薄くはぎ、それを何枚か重ね、金属ではなく竹釘で固定し作られています。屋根は数十年に一度葺き替えが必要で、前回の葺き替えは十九年前に行われました。この葺き替えにかかる多額の費用のうち、二分の一を国、四分の一を県、八分の一を市、残りの八分の一を神社の氏子で負担したそうです。実に費用の八分の七に税金が使われたことになり、それは全国のたくさんの人に、神社の歴史と文化を守っていただいたことになるのです。そのことへの感謝の気持ちが、叔父が神社を大切に守ろうとする理由の一つだったのです。

税金の使い道として、中学生の私たちにとって身近なのは、医療や教育に関するものだと思います。これらは中学生にも、税金の支えがあって日々生活していることを実感しやすいものです。しかし、調べてみると、税金の使い道は多岐にわたり、私の知らなかつた使い道もたくさんありました。将来納税者になる私も今からしっかりと税に関心を持ち、納税の意義を考える必要があると思いました。私は、屋根の葺き替えの話を通し、全国の顔も名前も知らない多くの人のおかげで、神社の歴史や文化が守られていることを知りました。自分が知らずに、税金の恩恵を受けていることもあるし、自分の身近ではなくても、納めた税金が、どこか遠くで知らない誰かの役に立つことに使われ、感謝されていることもあると知ることができました。次に屋根の葺き替えをするのは、二十年以上先になるそうです。その頃私は、納税者になっています。今よりずっと税に対する理解が深まっていることでしょう。税金は古くから続くものを守ること、そしてそれを未来につなげる役割も担っています。その税金を納めている全国の人に深く感謝して、私は神社の屋根を見上げているのではないかと思います。